

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	心理学Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0133			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電気電子工学科			対象学年	5		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	二宮克己編著「ベーシック心理学第2版」(医歯薬出版) 参考資料: 授業時に適宜資料を配布する。						
担当教員	市川 倫子						
到達目標							
1. 好ましい社会と人間のかかわり方について、心の健康の面から考え、それを理解できる。 2. 現代社会において、人と他者との関係をどのようにして形成するかを理解できる。 3. 社会や他者とのかかわり方について、コミュニケーションに焦点を当てた考え方を理解できる。							
ルーブリック							
	好ましい社会と人間のかかわり方について、心の健康の面から考え、それを応用的に理解できる。			好ましい社会と人間のかかわり方について、心の健康の面から考え、それを基本的に理解できる。		好ましい社会と人間のかかわり方について、心の健康の面から考え、それを理解できない。	
評価項目2	現代社会において、人と他者との関係をどのようにして形成するかを応用的に理解できる。			現代社会において、人と他者との関係をどのようにして形成するかを基本的に理解できる。		現代社会において、人と他者との関係をどのようにして形成するかを理解できない。	
評価項目3	社会や他者とのかかわり方について、コミュニケーションに焦点を当てた考え方を応用的に理解できる。			社会や他者とのかかわり方について、コミュニケーションに焦点を当てた考え方を基本的に理解できる。		社会や他者とのかかわり方について、コミュニケーションに焦点を当てた考え方を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	心理学は人の心のはたらきを見つめる学問であり、私たちの生活に密着した学問である。本授業では、心理教育的援助サービスとしての立場から心理学を捉え、具体的な心理学的技法を交えながら、人の心のはたらきを学習する。また、さまざまな体験的な学習を取り上げ、自分自身や他者に対する理解を深める。						
授業の進め方・方法	すべての内容は、学習・教育目標 (A) <視野>に対応する。 ・授業は講義・演習形式で行う。講義中は集中して聴講する。 ・「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。						
注意点	<到達目標の評価方法と基準> 下記授業計画の「到達目標」を網羅した中間試験、定期試験を1回ずつ実施する。また、その他授業中に行うワークのレポートでも目標の達成度を評価する。各「到達目標」に関する重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。 <学業成績の評価方法および評価基準> 後期末試験を80%、第8講の課題を10%、レポートを10%として評価する。ただし、後期末試験については再試験を行わない。 <単位修得要件> 後期中間試験、後期末試験、レポートの結果、学業成績で60点以上を取得すること。 <あらかじめ要求される基礎知識の範囲> 本教科は、始めて学ぶ学生が多いと思われる。テキストの内容を理解する読解力、内容を理解しようとする態度が大切である。 <レポート等>理解を深めるためのワークを適宜実施する。その振り返りレポートを課す。 <備考>本科目は心理学の中でも、自己や他者について考える分野を重点において学習する。授業には積極的な取り組みごと。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ストレスとその対応		1. ストレスの意味、ストレス・コーピングについて説明できる。		
		2週	人間関係1 対人認知		2. 対人認知の意味、対人関係を認知することの意味を説明できる		
		3週	人間関係2 自己開示		3. 自己をオープンにすることの意味を説明できる		
		4週	交流分析1 自我状態とエゴグラム		4. 交流分析の基本概念である自我状態を説明できる		
		5週	交流分析2 やりとり分析		5. 自身のコミュニケーションのクセを説明できる		
		6週	交流分析3 ストローク		6. 豊かな人間生活を送るためにストロークの必要性を説明できる		
		7週	交流分析4 OK牧場、ディスカウント		7. 基本的態度を説明できる		
		8週	中間テスト		目標1～7のこれまで学習した内容を説明できる		
	4thQ	9週	交流分析5 ゲーム		8. ゲームの意味とゲームをやめる方法を説明できる		
		10週	コミュニケーションにおける基本的な態度		9. よりよいコミュニケーションとはどのようなものか説明できる		
		11週	コミュニケーションの方法		10. 自分の思いをうまく伝える手法を身につける		
		12週	共感・傾聴		11. 相手とのよい関係を築く手法を身につける		
		13週	マイナス思考からの脱出		12. マイナス思考をプラス思考に変える事ができる		
		14週	セルフエスティーム、リフレーミング		13. 自己肯定感の意味が説明でき、それを高める方法をできるようにする		
		15週	ポジティブ心理学、ソリューション・フォーカスト・アプローチ		14. 自分の持つ「資源・強み」を活かす方法を見つけることができる		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

基礎的能力	人文・社会科学	社会	現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。			3	
評価割合								
	試験	課題	相互評価	態度	発表	その他	合計	
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100	
配点	80	20	0	0	0	0	100	